1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400017		
法人名	(株)オハナ		
事業所名	日ノ岡グループホーム		
所在地	湖西市岡崎2254-2		
自己評価作成日	平成26年9月22日	評価結果市町村受理日	平成27年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流。7月に地域の園児と共同で看板作りに励んだ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4月より管理者が交代しての新体制ですが、利用者の笑顔を引き出すためには額に汗して働きかけることを厭わないひたむきさが此処には変わらず在ります。本年は幼稚園児の訪問が叶い、可愛らしい手形で富士山を模って事業所の顔となる看板を共同制作しています。その日の様子は地元紙にも掲載され、地域密着型の広報にも繋がりました。支援学校との交流も継続され、奉仕活動としてトイレ掃除や窓ふき終了後、歌を披露する姿に涙を流して喜ぶ利用者の姿もありました。平均介護度3となり車椅子使用者が半数、食事介助を必要とする人も増えるなか、年に2回電車やバスを利用しての“全員で外出”を慣行しています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

###

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を元に、一人一人との関わりを大切にし、実践できるように常に努力している。	玄関に掲示し社内通信にも綴られています。新人研修に力を注ぎ「心に寄り添い、心と心が通う時間を、に込められた想いを具体化するために「してあげる」ではなく「させていただく」存在になろうと伝えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の盆踊りに参加したり、幼稚園、中学校との交流など内容の濃い交流ができた。	園児訪問が叶って可愛い手形で富士山を模り事業所の顔となる看板を共同制作しました。支援学校との交流も継続され奉仕活動としてトイレ掃除や窓ふき終了後、歌の披露に涙を流して喜ぶ利用者の姿もありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場では認知症、現在の利用者様状態についての説明をしているが、広範囲には伝えることができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方からのアドバイスを頂き、サービス向上に繋げていれる部分もありますが、全てではありません。	福社会長 町内会長 自治会長 民生委員をメンバーに定期開催しています。貴重な情報交換の場であり、「いきいきサロンに顔を出しては」「避難訓練には車を使ったら」といった率直な提言が活動の助けとなっています。	家族参加を呼びかけ出席が得られることを期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的には行えておりません。	運営推進会議には毎回市長寿介護課、地域包括支援センター職員の出席があります。管理者交代に伴い窓口に向く機会も増え、事故報告や『認知症カフェ』計画の相談にも丁寧な助言がもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員も具体的な身体拘束の行為を理解しており、入居者様への対応や接し方を考え日々取り組んでいる。	玄関施錠も、フィジカルロックもありません。咄嗟に出してしまう言葉がスピーチロックになっていないか、利用者の反応をユニット会議で話し合っています。入居間もない人の帰宅願望には常に寄り添って、家族の面会や協力を得ながら安心感に繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法について職員皆が学ぶ機会はまだもうけられていないが、虐待がないよう常に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会はまだない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	以前より、同意書の数が増えました。急変時の対応を明確にしご家族、利用者様には伝えるようつとめています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を実施しており、ご家族からの要望等を傾聴できるよう努めている。	介護相談員活動連絡票には利用者の気持ちも留められていることから職員の気づきもなっており、相談員には家族会にも参加してもらっています。事業所便りには毎月担当職員のコメントと写真を添えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の機会できいてはいるも、一人一人の思い、本音は聞けていないと感じます。個別的にもまちまちではありますが、職員に意見を求めるよう努めています。	ボトムアップのためユニット会議に管理者は出席せず、リーダーが中心となって自由な考えを導き出しています。利用者の「～へ行きたい」や笑顔を引き出すレクリエーションについて意見交換が活発です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明確にはできていないと思います。どう職場環境をよくしていったらいいのかわかりません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の場があるので極力希望者が多く出るよう、声を掛け促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回ほど交流する場をもうけ、他事業所との交流を図れていると思います。個々事業所での交流会は中々開かれていませんので、今後検討していきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人一人の話には傾聴し不安を取り除けるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等には傾聴し入居後でも傾聴できるよう、コミュニケーションをはかり、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り必要なサービスを利用していただけよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活という意識を持ってもらえるよう、一緒に家事をしたりレクリエーションに参加していただいたり、共に楽しむ事ができるよう接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の面会や、家族会などのイベントで家族との交流を大切に、共に支える立場であるという意識を持っていただけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから出向いての関係づくりの継続はほとんどできていないと思います。	友人との行き来は途絶えても市の敬老会に出向いたり、買い物先で知人とおしゃべりを楽しんでいます。月に一度息子や孫と自宅へ外泊したり、好きだった将棋や囲碁の対戦相手になれるよう職員も勉強しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握した上で、座席の配置を工夫したり、職員が間に入るなど孤立することのないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ退所後の家族の相談、意向が行われるように努めている。また家族の希望に添えられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の訴え、ならびに家族の訴えにも応じれるよう努めている。	入居時とケアプラン更新では意向を把握していますが、散歩や食事など日常の様子から表情、言動を観察してカンファレンスで検討しています。オリジナルシートに記載してユニット会議で情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録、本人、ご家族との会話の中で把握しサービスに活かせるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での利用者様の過ごし方を把握した上で、心身状態の変化等現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にて意見の交換を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット会議ではケアプランに沿った評価を行っています。体調変化があった時は随時カンファレンスを開き、計画作成担当者が各項目についてモニタリングしてプラン化し、書面をもって家族の了解を得ています。	プランについて職員理解に凸凹がないよう、内部研修の推進を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化に注意を配り、気がついた点については、口頭又は記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの変化については職員や家族と情報を共有し新たなニーズに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しく一日が過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が主となっているが、入居前のかかりつけ医や、場合によっては専門医への受診をしている。	月に一度往診があり、専門医以外は大半が協力医に変更しています。専門医への受診は家族にお願いしていますが、常の様子を伝えるために管理者・リーダーが同行しています。結果は申し送りノートで確認しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になるときはすぐに相談し、緊急時には電話連絡をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	様子を見に行くのはもちろん、NSと状態について聞くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ユニットリーダーを中心とし、日頃、最近の様子など面会時に話す場をもうけれるようにしている。	医療機関との夜間・休日の連携に課題があり現段階では行えていません。小さな状態変化も家族に伝え経口摂取ができる状態を線引きとして相談しています。緊急時の対応や救急車要請から到着までのマニュアルが用意され、本年は緊急対応研修会も執り行いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあるが、訓練等の勉強会は開けていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度避難訓練を実施しているが、もう少し増やすことができれば実際に起こった時の対応が違ってくると思います。	AEDが本年度設置され勉強会も開いています。夜間における地域避難訓練では道のりを体験し、冷える季節に「寒い、怖い」という声も聞かれ、地域の人がライトで先導してくれてのサポートの有難さを実感しました。	さらなる訓練の積み重ねで一連の流れが職員に周知されることを期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なれ合いにならぬよう言葉づかい、声かけに気をつけている。	新人研修ではプライバシーの保護や尊厳を学習しています。馴れ合いの中で誇りを傷つける言葉かけをしていないか、見受けられた時はその場で注意しています。排泄においては記号で伝え合うとして統一を進めています。	親しさのなかに誇りやプライバシーを損ねる言葉かけがないか、接遇について話されることを期待いたします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの言葉にはできる限り、傾聴できるように心掛け仕事をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースというものはできていないと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などの服装、朝の整容には気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に応じた家事を依頼しなるべく一緒に調理できるよう努めている。すべての好みに合うようには難しい。	食器を下げたり洗い物をしたり、男性利用者でも野菜の皮むきに参加して個々の力を活かしています。一緒に作ったものを食べ「○さんが切ってくれた野菜だよ」と笑顔が弾む食卓に喜びを見出しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量には十分気をつけています、食事量に関しては個々にむらがあるので声かけ、食事形態をかえ提供させていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食事ごとにおこない、個々の状態に合わせて歯ブラシ、舌下ブラシ、口腔用ウェットティッシュなどを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄ができるよう定時のトイレ誘導を行っている。訴えがある場合にはすぐに対応している。	歩行困難で立位が不安定な人もいますが、排泄パターンを参考にしてトイレでの排泄を行っています。自らの意思で訴えることが困難な人でも、落ち着きがなくなる、テーブルを動かすといった仕草で判断しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ、薬でコントロールすることのないように、牛乳、ヨーグルト他水分量には気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ペースは2日に1回だが時間帯などが決まっているため、個々の希望に添えていない。	敏感肌の人には刺激の少ないシャンプーと石鹸を準備し、代わり映えない浴室の壁にシールを貼って楽しい雰囲気を醸し出しています。座位が取れる限りは職員二人介助でゆっくり浴槽に浸かることができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や習慣により日中休んでいただくこともある。安眠できるよう居室の温度の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おおむね理解はしているが、副作用まではしっかり把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別となると難しいが、レクリエーションを通じ、散歩など気分転換を図ることができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回の家族会、月1度の外食などは行っているが、個々にというの中々できていない。	買い物への同行や愛犬の散歩に毎日付き添う人もいます。車椅子が必要な人が半数以上になりましたが月に一度は回転寿司やそば、海鮮丼など外食に出かけ、年に2回、マイクロバスを利用して全員で出かける日帰り旅行が恒例となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名個別でもっているがほとんどが立替という形になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、月毎のお便りを通じ日頃のご様子は伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真など掲示物により雰囲気作りはしているが、入居者にとってそれが居心地がいいのかは不明。	活動の様子を伝えるために写真を掲示しています。利用者同士の関係性を考慮してテーブルを配置し、空調は職員の感覚でなく利用者の様子を見たり直接聞いて調節しています。トイレは次亜塩素酸を使って徹底消毒しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気を配っているが集団生活という中なので、合わない人というもでできます。その際は職員が間にはいるよう徹底しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に愛用されていた物を持ち込んでいただいたり、大きな環境の変化のないよう配慮している。	敬老会で一人ひとりに手渡した表彰状が飾られていたり、掛け軸やぬいぐるみ、冷蔵庫といった持ち込みがありその人らしい居心地の良さがみられます。周辺症状によっては安全確保のために環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの行動を把握し、車いすや歩行者の妨げとなる物を置かないなど、気をつけている。トイレや居室の表示をわかりやすくしている。		